

# 大豆近況 VOL.177

関係部署にご閲覧ください。

団体会員  
一般会員 各位  
賛助会員  
協賛企業

令和5年9月5日  
一般財団法人 全国豆腐連合会

「大豆近況」をお届け致します。是非、ご活用下さい。

## ○北米産大豆

8月のシカゴ相場(2023年9月限)は、\$13.87/bus近辺から始まり、最終的にはほぼ据え置き  
の\$13.80/bus程の引けという月となりました。米国产大豆が、高温乾燥傾向の天候により、作柄  
が悪化しておりましたが、8月は恵みの雨の影響により作柄が回復したことを背景に、相場は安定  
しました。

米国農務省が8月に発表した2023/2024年度の米国大豆需給報告の詳細は下記のとおりと  
なっております。

2023/24年度 米国产大豆 需給表

項目 / 発表月	①		②	
	2023年7月	2023年8月	② - ①	
作付面積 (百万エーカー)	83.50	83.50	0.00	
収穫面積 (百万エーカー)	82.70	82.70	0.00	
差異 (百万エーカー)	0.80	0.80	0.00	
収穫率 (%)	99.04	99.04	0.00	
単収 (ブッシェル/エーカー)	52.00	50.90	-1.10	
期初在庫予想 (百万t)	6.94	7.08	0.14	
生産量 (百万t)	117.03	114.44	-2.59	
輸入量 (百万t)	0.54	0.82	0.27	
総供給量 (百万t)	124.51	122.36	-2.15	
搾油用 (百万t)	62.60	62.60	0.00	
輸出 (百万t)	50.35	49.67	-0.68	
種子用 (百万t)	2.75	2.75	0.00	
その他 (百万t)	0.68	0.68	0.00	
総需要量 (百万t)	116.38	115.70	-0.68	
期末在庫 (百万t)	8.16	6.67	-1.50	
在庫率 (%)	7.02	5.76	-1.25	
農家平均価格 (\$/bu)	12.40	12.70	0.30	

供給面は期初在庫が増えた反面、生産量は単収の低下により減少、総供給量は122.36百万ト  
ンへ下方修正、需要面は輸出用が減り総需要量は115.70百万トンへ下方修正され、その結果、  
期末在庫は6.67百万トン、先月比1.50百万トンの下方修正となりました。この結果は相場にとっ

て強材料となりました。

また、米国産大豆の最新の生育進捗状況は下記のとおりとなっております。

2023年産 米国産大豆 クロップレポート

項目	8月20日	8月27日	昨年同日	5年平均
作柄（良+最良）	59	58	57	-
着莢（%）	86	91	90	90
落葉（%）	-	5	4	6

8月27日時点では、着莢、落葉へと生育が進んでおります。着莢の進捗率は91%となっており、昨年同日及び5年平均と同程度で進んでいることが読み取れます。落葉の進捗率は5%となっており、こちらも昨年同日及び5年平均と同程度で進んでおります。着莢、落葉はいずれも昨年及び5年平均と同程度の進捗状況となっております。作柄に関しては、前週よりも1ポイント下がり58ポイントとなっておりますが、1ヶ月程前が52ポイントであることを考えると作柄は昨年と同程度回復している状況です。乾燥傾向であった米中西部に8月は恵みの雨が降ったことで作柄は回復しました。

また、2023/2024年度の世界大豆需給報告の詳細は下表のとおりとなっております。

2023/24年度 世界の大豆 需給表

項目 / 発表月		①	②	② - ①
		2023年7月	2023年8月	
世界大豆需給	期初在庫予想（百万t）	102.90	103.09	0.19
	生産量（百万t）	405.31	402.79	-2.52
	輸入量（百万t）	166.57	166.25	-0.32
	国内消費（百万t）	384.51	383.94	-0.57
	（内 国内搾油用（百万t））	330.25	329.53	-0.72
	輸出（百万t）	169.29	168.77	-0.52
	期末在庫（百万t）	120.98	119.40	-1.58
	在庫率（%）	31.46	31.10	-0.36
主要輸出国 生産内訳	米国（百万t）	117.03	114.45	-2.58
	アルゼンチン（百万t）	48.00	48.00	0.00
	ブラジル（百万t）	163.00	163.00	0.00
	パラグアイ（百万t）	10.00	10.00	0.00
中国輸入量（百万t）		99.00	99.00	0.00

先月比で供給面は期初在庫が上方修正、生産量、輸入量は下方修正となり、需要面では国内消費、輸出が下方修正となった結果、期末在庫は119.40百万トンと先月比1.58百万トンの下方修正と

なりました。この結果は相場にとって強材料となりました。

ブラジル・アルゼンチンに関してですが、上記表のとおり、いずれも2024年産の予想生産量は先月から変更はありません。なお、上記表には記載されておりませんが2023年産の生産量予想も先月から変更はありません。(ブラジル156百万トン、アルゼンチン25百万トン)

南米の大豆を取り巻く環境以外で相場に影響を与える要因として、中国を中心とした世界需要があります。直近の米週間輸出成約高は、旧穀▼50.7千MT(事前予想50-300千MT)、新穀1,123.8千MT(事前予想600-1,400千MT)、合計1,073.1千MT(事前予想650-1,700千MT)となり事前予想の範囲内の結果となりました。ロシア・ウクライナの国際情勢等も相場へ影響を与える場合がありますので、引き続き注意が必要と思われます。

北米産大豆の入港状況は、米西海岸からの配船は安定してきたものの、大豆産地からの貨車輸送はまだ安定したとは言い切れない状況です。また、海上運賃はここ数ヶ月は落ち着きを見せております。

## ○為替相場

8月の円相場は、1ドル143円前半から始まりました。8月8日、ニューヨーク連銀のウィリアムズ総裁がFRB(連邦準備理事会)の政策金利利上げについてピークにかなり近づいているとの発言をし、利上げ打ち止めによる景気下支えが期待され株価が上昇。また来年からの利下げを示唆しているコメントもあり、米債券売り、長期金利の上昇を背景にドル高円安へと進みました。その後、日本政府、日本銀行から口先介入が見られないこと、米国の7月小売売上高が市場予想を上回る結果となったこと、米国FOMC(連邦公開市場委員会)議事要旨のタカ派的な結果(議事要旨に「当局者はインフレリスクによりさらなる引き締めが必要となる可能性と指摘」「当局者はインフレに著しい上振れリスクがあると指摘」とのコメントあり)を受け円安が進みました。日本銀行の金融緩和政策継続からの日米金利差拡大が縮まらず円安傾向が続き、最終的には1ドル145円後半で引けという月になりました。米国のインフレ状況・政策金利の動向等により今後も為替は大きく変動し易い状況であり、他国の情勢だけではなく日本銀行の金利政策の方針にも注視する必要があります。

## ○国産大豆

現在、令和5年産国産大豆の生育状況ですが、各産地の現状は下記のとおりです。

### ・北海道

播種は例年通り4月下旬から開始され、5月に干ばつがありました。6月以降は順調であり、例年よりも一週間程度早い開花期となりました。但し、全体的に生育は早く若干粒度が小粒傾向となる懸

念があります。また、北見地方の豪雨や台風の被害は限定的であり、大きな問題はありません。

・東北

秋田県は7月中旬の線状降水帯被害により、特にJAあきた、JAなまはげ管内が壊滅的被害となっております。他県産地は概ね順調です。

・関東

全体的に概ね適期に播種が行われ、生育は順調です。

・北陸

7月後半以降、高温乾燥傾向の天候が続き、花落ちや莢付きに影響が出ている圃場が見られ、生育不良の圃場も散見されます。

・東海

特に目立った問題はありませんが、愛知県は7月に入ってから高温の天候が続き、作物への影響が若干懸念されております。

・近畿

滋賀は6月下旬から末にかけての断続的な降雨により播種が遅れ、また7月後半以降の晴れ続きで干ばつ傾向にあり、生育不良と見られる圃場も散見されております。兵庫県も似たような状況です。

・中国

鳥取県や島根県は線状降水帯被害があったものの、大豆作付地域への影響はかなり限定的でありました。山口県は7月頭の豪雨により、冠水した大豆の圃場は、生産計画面積に対して約5%にあたります。

・九州

7月中旬に梅雨の影響で播種がやや遅れましたが心配するほどではなく、7月末までに完了しております。一部、雨による被害が発生しておりますが範囲は限定的です。

順調に生育が進んでいる地域と天候被害の影響を大きく受けている地域があり、反収・作柄の地域差が生まれる可能性があり、今後も注視が必要です。

以上